

ファン ドウ ック ロック さん

第二のふるさとになった甲賀市で、サッカーや伝統文化の交流イベントを通して、子どもが笑顔になって家族が幸せになれるコミュニティを作っていきたいですね。



■ロックさんは2008年来日されたことですが、きっかけは何だったのでしょうか？

大学で機械設計を学んでいたことから、卒業後すぐにベトナムで日系の生産ライン設備事業の会社に就職しました。仕事をしているうちに日本語に興味を持ち、実際に日本に来て仕事をしたいと思い始めました。社内の日本語講座で8ヶ月間勉強し、日本語検定3級を取得して2ヶ月で日本の図面の引き方を習得。2008年来日し、石川県の会社に機械設計士として就職しました。

ところが、2009年の不景気（リーマンショックの影響による世界的な経済危機）で私たち外国人は職を失いました。そこで仕事を探して、富山県にあるエレベーターの製造会社に就職しました。その後、2011年に現在勤めている甲賀市の医療機器製造会社に転職しました。

■ご家族も一緒に日本に来られていたのですか？

日本に来てから結婚しましたが、妻が出産のためにベトナムに帰国したため、その後は単身で日本にいました。ただ、子どもの顔を見たかったこともあり、富山の会社の提携会社がベトナムにあったので、途中からはベトナムに帰国して仕事をしていました。その後、甲賀市の会社への転職のタイミングで、妻と子どもたちと一緒に日本で暮らすことになりました。

■ベトナムにいた頃の日本のイメージと実際とで違いはありましたか？

ベトナムにいた頃は、日本は都会的で賑やかな国だとイメージしていましたが、自身が勤める会社は大きな敷地が必要な製造系の会社で地方にあったため、東京や大阪のイメージと異なり、どこも人が少なく驚きました。

ただ、人のマナーの良さはベトナムにいた頃感じていたとおりでした。赤信号で停車していると、青信号で渡る子どもたちがおじぎをして渡ってくれたことに感動しましたね。家族で日本にいたのは、日本が安心安全で住みやすい国だからです。

■2011年にご家族も一緒に日本に来られて14年経ちますが、日本の暮らしはいかがですか？

小学生と中学生の2人の子どもたちは

日本の学校に通っていることもあって、日本語は私より上手で、日本の暮らしに不便を感じている様子はありませんが、妻は日本語が難しいようです。家では、子どもたちが母国語を忘れないようにベトナム語で話しています。暮らしの中で難しいのはゴミ出しですね。私の周りでも日本語がわからずゴミ出しに苦労しているベトナム人が多いです。

■ロックさんは5年前からベトナム人のサッカーチームを作って県内で大会を開催されていますが、そのきっかけは何だったのですか？

私が甲賀に来た14年前に比べて、ベトナム人の技能実習生の人数もかなり多くなりました。そうしたことからベトナム人のコミュニティを作る必要があると思いました。学生の頃からサッカーを楽しんでいたため、チーム作りのために募集すると、応援してくれる人を含めて30人ほど集まりました。ベトナム人のチームは甲賀だけでなく、県内には彦根、長浜、近江八幡、東近江、草津にもあり全部で12チームもあります。そうしたことから2022年と2024年には県内のベトナム人のサッカー大会を企画しました。3回目の大会を今年か来年には開催したいと思っています。

■他にも子どもたちが集える場づくりもされているのですか？

そうですね、子どもたちも両親が働いていると家に引きこもりがちになるので、ベトナムの伝統衣装のアオザイを着る集いや、中秋の名月を祝う祭り、家族みんなで楽しめるようなクリスマス会などを毎年開き、子どもたちの笑顔で家族みんなが幸せになれるようなイベントを開催しています。また、2年前に妻が水口町にベトナム食材店をオープンしたので、そこもベトナム人の交流の場になっていますし、日本人も買いに来られるので、今後は多文化交流の場所になっていくといいなと思っています。

■最後にロックさんが思う国際交流のあり方や、夢・今後の目標を教えてください。

まずは言葉がわかることが、国際交流をするには大切です。言葉が理解できないと日本人とも交わることができないので、

▲土曜日はサッカーをしている小学生のお子さんを練習場に送った後、自身のチームの練習に行くといった忙しい休日を過ごしているとのこと。

● プロフィール ●

ファン ドウ ック ロック さん／
ベトナム ドンナイ 出身 甲賀市在住
機械設計士

大学卒業後に日系企業で1年勤め、2008年来日。石川県、富山県、滋賀県で機械設計の仕事に携わる。2011年に甲賀市に転居してからは、サッカーを通じて地元のベトナム人コミュニティ同士の交流を深めている。また、母国の伝統文化を伝えるイベントを開催するほか、甲賀市の国際交流イベントにも積極的に参加。休みの日にはベトナム食材店を営むパートナーを手伝うなど、同じ母国の人たちにとっても住み良い地域をつくろうと奔走している。



▲ロックさんのサッカーチーム「Que(クウェ) Shiga FC」。「Que」はベトナム語で「ふるさと」という意味。



▶パートナーが営むベトナム食材の店「ふるさと」。ロックさんも時間がある時は手伝いに入る。



昼間だけでなく、土日の勤務や夜勤がある人たちも参加できるような日本語講座の場が欲しいと思っています。そこでゴミ出しの方法も詳しく教えていただけるといいですね。単身暮らしで、地域の人と上手く交流できずにいる人には、特に大事なことです。

私がこれからしたいことは、ベトナム人が集えるいろんな遊び場、レストランやカラオケを備えた交流スペースを作ることです。また、将来の一番大きな夢はサッカーグラウンドを作ることですね。この第二のふるさとになった甲賀市で、サッカーや伝統文化を通じた交流を盛り上げていきたいです。